

がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン がん治療のブレイクスルーを担う医療人育成

第32回 東京大学・横浜市立大学・東邦大学・ 自治医科大学合同セミナー

EBウイルスと発癌

演者：牛久 綾（東京大学医学部附属病院 病理部 特任講師）

日時：平成27年6月24日（水） 18:45-20:00

場所：東大病院 中央診療棟 II 7階大会議室
(連携大学遠隔同時講義を予定しています)

Epstein-Barrウイルスはヒトの癌ウイルスとして報告された最初のウイルスであり、その発見から50年が経過した。バーキットリンパ腫をはじめとするB細胞性リンパ腫、NK/T細胞性リンパ腫や移植後リンパ増殖性疾患の原因であるとともに、上咽頭癌や胃癌などの上皮性悪性腫瘍の発生にも密接に関与している。近年、ゲノム、エピゲノムおよびトランスクリプトームを対象とした網羅的遺伝子解析手法が急速に発展しており、これによりEBウイルス関連腫瘍における種々の遺伝子異常が明らかになりつつある。本講演ではEBウイルス関連腫瘍について概説するとともに、特に胃癌の約10%を占めるEBウイルス関連胃癌について、最新の研究報告により明らかとなった知見をまじえつつ、発癌におけるEBウイルスの役割について述べる。

当セミナーは、がんプロフェッショナルの養成、
がん治療のブレイクスルーを担う医療人育成
のために設置されたプランです。
がん医療に関心のある医療従事者のご参加をお待ちしております。

《お問合せ窓口》
東京大学がんプロ事務局 建石良介
ganpro-admin@umin.org

